

# 管楽合奏は楽しい会？

No.43” フランス音楽を中心に”

2014年11月29日(土)14時開演 東部フレンドホール

ゲーヴィ (仏/1819~1898)

「管楽八重奏曲」

(Fl)信澤(Ob)一宮 (Cl)塩野/宮下 (Fg)森川/大石 (Hn)中原/鬼村

モーツァルト (奥/1756~1791)

「嬉遊曲変ホ長調 Kv.166」

(Ob)楠原/山本 (Cor.A)土屋/一宮 (Cl)兼氏/宮下 (Fg)山田/角山 (Hn)市原/塩尻

G. ピエルネ (仏/1863~1937)

「序奏とフゲッタ Op.40-1」

(Fl)信澤/岡添 (Ob)山本 (Cl)宮下 (Fg)阿部/角山 (Hn)中原

----- Intermission -----

グノー (仏/1818~1893)

「小交響曲」

(Fl)岡添 (Ob)山本/土屋 (Cl)塩野/宮下 (Fg)大石/山田 (Hn)市原/中原

カプレ (仏/1878~1925)

「ペルシャ組曲 作品188」

(Fl)岡添/信澤 (Ob)土屋/楠原 (Cl)兼氏/塩野 (Fg)阿部/山田 (Hn)塩尻/鬼村

## 出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & Fg/解説)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学在学中ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を主催。その他オケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表及び「法政ファゴットの会」同人

(Fl & Cond)岡添 隆(おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン、東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーで化学の技術総括に携わる。「研究のアイデアは音楽で演奏する時のアイデアと共通するものがある」と主張し、部下達にあきられている。指揮もする才人。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動し、2009年より団長を務めている。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが、現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので、運動不足が気になる昨今である。

(Ob & C. Ang)一宮悠子(いちみや ゆうこ)

中学からオーボエを始める。高校時代には鈴木繁、大学時代より渡辺潤也の各氏に師事。卒業後に地元仙台で就職したのを機に 念願のアマチュアオケに入団。以降もレッスンの度に高崎へ、また声が掛ければ喜んで上京し演奏活動をする日々を送っていたが、2012年の春より埼玉へ移住し週末の音楽活動を楽しんでいる。平日は医療専門職として勤務。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学〜大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob & C. Ang)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルグリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦文彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。現在は洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団及び洗足学園音楽大学演奏補助要員であり、Ensemble Le Creusetメンバー更に市川市文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属。

(Ob)山本悦子(やまもと えつこ)

川崎市立御幸中学校吹奏楽部でオーボエを始め、神奈川県立新城高校吹奏楽部、専修大学フィルハーモニー管弦楽団を経て、2001~2013年までエルムの鐘交響楽団にて活動。2008年~菅原眸先生にご指導戴いているハルモニア合奏団で管楽アンサンブルを始め、「管楽合奏は楽しい会？」には2014年から参加する。最近、医療系図書館司書から病院応報担当に転職した。趣味は海釣りやサイクリングである。

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリステン代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)塩野景子(しおの けいこ)

茨城県のとある小学校の小さな合奏団でクラリネットを始めるも、その後しばらく休眠。大学で楽器を再開し、今日に至る。これまでに佐々木麻衣子氏、平林邦男氏、川井夏香氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、Ensemble Camphrier等で、オーケストラ、室内楽を中心に活動。

(Cl)宮下節子(みやした せつこ)

学生時代は東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その後名古屋市内管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団で演奏している。クラリネットを平林邦男氏に師事。平日は裁判所で働く国家公務員。

(Fg)阿部寛一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会？出演後アメリカに赴任するが、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)大石龍巳(おおいし たつみ)

京都大学交響楽団で活躍する。阿部氏の後輩である。現在はアンサンブル・メゾンで演奏活動中。本業は地方公務員。横浜で街づくりの仕事に携わっている。天気の良い日のランドマークタワーの眺望は最高とのこと。演奏会にお出での皆さん、横浜に行きましょう！

(Fg)角山由美(かくやま よしみ)

法政二高では吹奏楽部、その後法政大学交響楽団で演奏、ジュネスにも出演する。大学卒業と同時に(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)で音楽家の権利を護る仕事一筋に勤めてきたが、仕事から退いたのを機にファゴットの基本から取り組んでいきたいと、演奏する事への意欲は益々盛んである。加えてコントラファゴットの名手でもある。「管楽合奏は楽しい会？」ホームページの管理人。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

10歳くらいまでヴァイオリン、中学でユーフォニアム。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。平日は大学教員(物理化学)。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Hn)市原秀紀(いちはら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後何度かの転職をするなど紆余曲折を経て現在は電池材料の研究探索をしつつ週末ホルン奏者。脇屋俊介氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に活動。それ以外にも大編成のホルンアンサンブル"Strudel Hornisten"、木管アンサンブル"Particles"を主宰してみたりしている。

(Hr)鬼村真由子(おにむら まゆこ)

高校の吹奏楽部でホルンを始め、東京大学音楽部管弦楽団を経て、卒団後は東京アマデウス管弦楽団や金管アンサンブル団体で活動。某ビール会社勤務で転勤族のため、ドイツや九州など転勤先でもオーケストラを見つけ細々と活動していたが、昨年入社以来初の東京勤務となり、アンサンブルなど活動を展開中。

(Hn)塩尻理恵(しおじり りえ) 初参加!

9歳よりホルンを始める。東京音楽大学音楽学部ホルン科首席卒業。守山光三、富成裕一、湯川研一の各氏に師事する。現在はアンサンブル・アクアのメンバーであり、またフリー奏者としても活動中。

(Hn)中原史生(なかはら ふみお)

京都大学交響楽団に籍中にホルンを小山亮氏に師事。大学院在学時に演奏活動から離れるも、就職を機に復帰。現在はアンサンブル・メゾン、茨城交響楽団で活動中。普段は海洋動物学が専門の大学教員をしており、唇の日焼け対策に苦労している。

管弦楽団やアンサンブルは社会の縮図だと考えるのです。管弦楽が大規模マンションとすれば、管楽アンサンブルのそれは気心の知れた仲間の集まる長屋の様なもの。主宰者は差配ですが、メンバーは店子でしょうか。そこに住む人は色々な仕事を持っています。仕事が違うと、善人ばかりでも揉める事はあります。壁の薄い長屋では主張ばかりすれば角が立つし、耐えてばかりでも鬱憤が溜まります。そこで差配はみんなが気持ち良く演奏する手助けをしている訳です。同時に時には皆に指示を与え、不都合があれば相談に乗り、苦情も聞いて演奏会のステージに連れ出すのです。お互いに少しずつ譲りながら、お互いの理想を実現出来る様に道筋を付けて行くのです。我々の楽器は一人で成り立たないのですから、こうした運営が不可欠だし、何よりメンバーの協力が重要です。ですから良い店子に居着いて貰える様に、良い関係を築く事が不可欠です。そんな事を想像しながら聴けば、音楽=人間(にんげん・じんかん)だと感じて戴けるかも知れません。

宜しければ、感想などお聞かせ下さい。メールアドレスは [heckelfg@gmail.com](mailto:heckelfg@gmail.com) です。

次回の演奏会は2015年5月2日(土)14時開演 深川江戸資料館小劇場